

IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究に関する研究

研究代表者又は研究分担者 後藤 浩

研究要旨 IgG4 関連眼疾患の眼症状の頻度および視機能障害の頻度を、多施設のデータをもとに明らかにした。

A. 研究目的

IgG4関連眼疾患の眼症状の頻度、特に視機能低下例の実態を多施設で調査する。

B. 研究方法

本研究班で編成された眼科部会の研究協力施設に対して、IgG4関連眼疾患の眼症状の頻度、特に視力低下、視野障害、眼球運動障害(複視)の詳細について調査する。また、治療内容、予後についても調査を行う。

(倫理面への配慮)

該当せず

C. 研究結果と考按

全国 8 施設で IgG4 関連眼疾患と診断された 378 例(確定診断群 260 例、準確定群 45 例、疑診群)の解析の結果、患者の平均年齢は 60.6 ± 13.9 歳、男性 183 例、女性 195 例、診断確定時の血清 IgG4 値は 578.9 ± 569.1 mg/ml、眼外病変の併発は 182 例(48%)にみられた。また、涙腺の腫大は 86%と最も多くみられた他、外眼筋の腫大が 21%、三叉神経の腫大が 20%、眼瞼皮下の腫瘍が 12%、眼窩内の

限局性腫瘍が 11%、眼窩内のびまん性病変が 8%、視神経周囲病変が 8%。強膜の腫瘍性病変が 1%と、一定の割合で眼組織に多彩な病変を生じることが確認された。また、ドライアイが 22%、眼球運動障害や眼位の異常による複視が 20%、視神経障害等による視力低下と視野障害が、それぞれ 8%、5%と、やはり一定の割合で視機能障害を来することが判明した。

D. 考察

IgG4 関連眼疾患にみられる多彩な眼症状とともに、QOL に大きく影響する視機能障害に至る症例の頻度や実態が明らかになった。これらのデータは、今後本症の重症度分類の確立に向けた貴重なデータになると考えられる。実際、視機能障害に至った症例の中にはステロイドの全身投与によって改善が得られたケースもあれば、恒久的な障害が残った症例もあり、至適な治療方法の確立も含め、今後の検討課題と考えられた。

なお、眼症状、特に肥大した涙腺に対しては、外科的にこれを可及的切除することが治療に直結するとともに、再発予防につながる可能性が報告され、今後の検討課題として注目すべきであろう。

E. 結論

IgG4関連眼疾患に見られる多彩な眼症

状の実態と視機能障害の実態を明らかにすることができた。

F. 健康危険情報

特になし

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

- Ominato J, Oyama T, Cho H, et al: The natural course of IgG4-related ophthalmic disease after debulking surgery: a single-centre retrospective study. *BMJ Open Ophthalmol.* 2019 Aug 9; 4: e000295.
- 臼井嘉彦: IgG4関連眼疾患の病因論 *眼科* 62:137-141, 2020
- 高比良雅之: IgG4関連疾患 *眼科* 61:1151-1157, 2019
- 高比良雅之: IgG4関連疾患 *日医雑誌* 48:909-912, 2019
- 後藤 浩: 眼病変 検査・診断 最新 IgG4 関連疾患(改定第2版) 診断と治療社 52-54, 2019
- 後藤 浩: IgG4 関連眼疾患 あたらしい眼科 36:11-15, 2019
- 上田俊一郎, 後藤 浩: 【中途失明の可能性のある疾患 Q&A】最近 IgG4 関連眼疾患という言葉をよく聞きますが、よく知りません。教えてください あたらしい眼科 36:266-269, 2019
- 臼井嘉彦, 後藤 浩: 眼科領域における IgG4 関連疾患研究の過去・現在・未来 *消化器病学サイエンス* 3:50-53, 2019
- 臼井嘉彦: IgG4 関連眼疾患 *MB OCULI* 73:21-29, 2019

2. 学会発表

- Yoshifuji H, Shirakashi M, Kodama Y, Goto H, et al.: Associations between organ involvements and gender, allergy and malignancy in 166 patients with IgG4-related disease. *European League Against Rheumatism* 2019, (June, 12-15) Spain
- Nezu N, Shimizu H, Usui Y, Goto H, et al.: Identification of novel micro RNAs for distinguishing orbital mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma from IgG4-related ophthalmic disease. 第184回東京医科大学医学会総会(2019年11月16日)東京
- 臼井嘉彦, 朝蔭正樹, 坪田欣也, 小川麻里奈, 山川直之, 清水広之, 禰津直也, 馬詰和

比古, 後藤 浩: RNAseqによる IgG4関連眼疾患における遺伝子解析

第47回日本臨床免疫学会(2019年10月17-19日)北海道

- 朝蔭正樹, 臼井嘉彦, 小川麻里奈, 山川直之, 馬詰和比古, 根本 怜, 黒田雅彦, 後藤 浩: RNAseqによるIgG4関連眼疾患と眼窩MALTリンパ腫の鑑別 第39回日本分子腫瘍マーカー研究会(2019年9月25日)京都
- 後藤 浩: 眼疾患分科会報告 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)「IgG4 関連疾患の診断基準ならびに診療指針の確立を目指す研究」班 令和元年度第1回班会議(2019年7月27日)京都
- 朝蔭正樹: RNAseqによるIgG4関連眼疾患における遺伝子解析 第98回免疫アレルギー研究会(2019年6月18日)東京
- 朝蔭正樹, 臼井嘉彦, 小川麻里奈, 山川直之, 馬詰和比古, 根本 怜, 後藤 浩: 次世代シーケンサーを用いたRNAseqによるIgG4関連眼疾患における遺伝子解析 第123回日本眼科学会総会(2019年4月21日)東京
- 上田俊一郎, 根本 怜, 安積 淳, 大島浩一, 小川葉子, 尾山徳秀, 北川和子, 曾我部由香, 高比良雅之, 古田 実, 後藤 浩: 多施設研究によるIgG4関連眼疾患の臨床像の検討 第123回日本眼科学会総会(2019年4月21日)東京

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし